

羅針盤



We are the Dermatology

青山 裕美

Yumi Aoyama

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科学 講師

20代皮膚科医の女性比率が70%に達し、卒後10年前後で休職傾向があるという調査結果は、はからずも大きな衝撃を与えました(JDA LETTER, 01号, 2009)。

医療現場の医師の労働条件は依然として過酷です。退局希望は女性に限ったことではないのが現状でしょう。しかし苦しくても楽しそうに働いている人も相当数いらっしゃいます。その秘密を知りたいと思い、この問題に取り組んでいます。

そもそも生来、柔らかい感性を持つ女性医師が、競争原理の働く男性社会の中でプロフェッショナルとして生き抜くためには、より強くならざるを得ない現実があります。さらに、日本人女性の就業率が30代で有意に低下し、有名なM字型を描くことに象徴されるように、家族を持つ30代の女性医師には、明らかに大きな負荷のしかかっています。すぐにへこんでしまうボールのような彼女達の心をどのように膨らませ、弾ませましょうか？ 効果的な社会支援と自立をうながすちょっとした励ましや工夫が必要と感ずるのです。

そこで、さまざまな分野で活躍中のフロンランナーの協力を得て、自分自身や周囲の現状にメスを入れてもらい、形のない問題を見えるようにし、元気づける対策を特集してみました。

皮膚科社会は多様な価値観を持つ人々で構成されています。決して相容れないものを持つもの同士でも、皮膚科学を学び、発展させ、よりよい医療を社会に提供したいと願う点で一致しています。私たちは、皮膚科学の子で



あり、一部です。今私達に生じている変化と、多様性を互いに認め合い、独自性を保ちながらも、助け合えるしなやかな強さを獲得することはできないでしょうか。

お互いに批判することをやめて、自分自身が果たしてどんな皮膚科医になりたいのか夢を持ちましょう。そして目指す山頂を心の羅針盤で探しながら歩きましょう。自力で登った山頂からの眺めほ

ど、美しく心を打つものはありません。強い人は弱い人に手をさしのべる心のゆとりを、自分の強さの中から探してみませんか。弱い人こそゆっくりでもいいから立ち止まらないで歩き続けてほしいです。そんなあなたがひたむきに生き、皮膚科医としての楽しさを感じるからこそ、実は強い人の心が折れそうになるのを支える唯一の特効薬かもしれません。

多くの先輩・仲間達が覚悟をもって明かす心のうちを、素直な気持ちで読んでください。私たちも、あなたとおなじく一歩からはじめ、今も頂上を目指しながら、絶望と希望に満ちた葛藤のなかで自分に言い聞かせながら歩いています。この気持ちは今も昔も変わることなくきっと男女共通に違うと思います。

辛い時、そっと開いて、また明日も、と思わせる一冊を届けます。

そして、私達が今日、自由を当たり前享受できるよう扉と道を開いてくださった男性・女性の諸先輩方、そして今も私の心の支えになっている仲間達に心から感謝のきもちを捧げます。